

No.
137

北里大学病院ニューズレター
「窓」

Mado



診療科紹介 リウマチ膠原病・感染内科

リウマチ膠原病・感染内科のご紹介

診療科紹介

リウマチ膠原病・
感染内科

リウマチ膠原病・感染内科の ご紹介

北里大学病院 病院長
北里大学医学部 リウマチ膠原病・感染内科学 主任教授 **山岡 邦宏**



膠原病はどんな病気？

正式には膠原病という病名は以前使用されていたものであり現在は、骨、筋、腱などに影響を与えて関節症状を伴う疾患としてリウマチ性疾患と呼ばれ（ここでは膠原病と記載します）、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、変形性関節症など多くの疾患を総称する名称です。「コラーゲン」という呼称に馴染んでいる方もおられると思いますが、これは結合組織病の直訳の名残によるもので、現在は使われなくなっています。我々の免疫は、身体を外敵から守ってくれるものですが、何らかの理由により暴走することで、自分自身を攻撃してしまう状態、つまり免疫が自己を攻撃して引き起こされる病気が膠原病です。原因は明らかにされおらず、ある特定の原因よりは、遺伝や環境などの多くの要因が重なって発症すると理解されています。我々は、この暴走している免疫を何とか制御することを専門としており、患者数が最も多いのが関節リウマチです。

リウマチの気とは？

健康診断ではリウマチ因子（RF）が測定され、陽性の場合には当科を受診いただきます。さて、このRFが陽性だとどのような意味があるのでしょうか？当科を受診された多くの患者さんでは「リウマチの気がある」と説明されている場合が多いと思います。RFは関節リウマチを発症する10～15年前から陽性になるとされていますので確かにリウマチの気があることに間違いではありません。一方で、RFは更年期女性で陽性化することが多く、感染症など免疫が活性化した時にも陽性化することも知られています。では、RF陽性の方の何%

が関節リウマチを発症するのかといえば、10%以下なのです。つまり、RF陽性の9割以上の方は関節リウマチを発症することはありませんので、関節リウマチかも？と心配する必要はありません。現在は、RFが陽性の場合には関節リウマチに対する特異性がより高い抗CCP抗体を測定いただいていることが多くなっています。抗CCP抗体陽性の方は、RFだけ陽性の場合と比べて将来的に関節リウマチを発症する可能性が高くなります。RF、抗CCP抗体が陽性だからと言ってすぐに治療する必要はありませんが、当科を含めた専門的医療機関を是非受診ください。

食事やサプリで免疫は強くできる？

口から摂取するもので免疫を強くすることはできません。薬剤は一般的に免疫を抑えることはできますが、やはり強化することはできません。では、食事やサプリではどうなのでしょう？薬でできないことをこれらで行うことはやはり難しいとされています。十分な栄養と休養により免疫を正常化できることはあるかもしれませんが、やはり強化することはできません。膠原病は免疫が暴走するほどに活性化している状態にあるため、治療としては免疫の強化ではなく抑制が必要

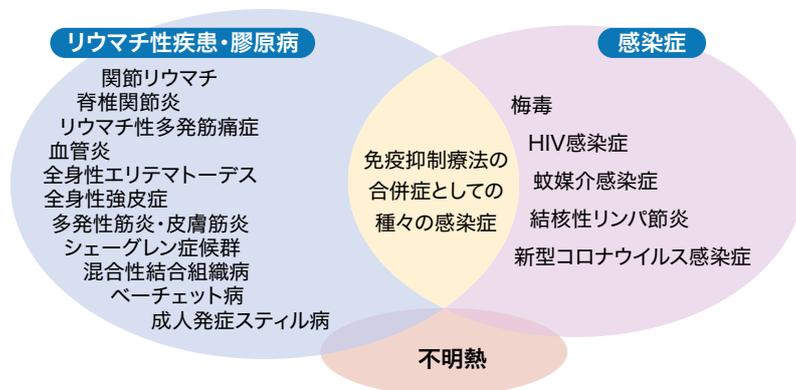
である点は注意が必要です。口から摂取するものとして、膠原病、特に関節リウマチと関係するものとして喫煙がよく知られています。喫煙は、抗CCP抗体陽性化とも関連が強いことが知られていますので、喫煙中の方は禁煙を一つの予防、治療と考えていただくと良いと思います。

関節リウマチの治療は、炎症で重要な働きをするタンパク質に対する生物学的製剤（点滴、自己注射）が20年前に承認されてから激変しました。高い治療効果のため、今では関節リウマチ患者さんで関節変形をきたす方は減り、関節置換術などの手術症例数も減りました。10年前からは、内服薬でも類似した効果を示すJAK阻害薬が使用可能となり、様々な治療選択肢で高い治療効果が得られるようになってきました。また、この治療効果は多くの患者さんでステロイド投与中止も可能にして、生活の質や予後の向上にも寄与しています。

これから先

関節リウマチの治療は劇的な変化を遂げ、今ではあまり恐れる必要がない病気になりつつありますが、まだ治癒させることができない大きな課題が残っています。また、関節リウマチ以外の膠原病の治療はいまだステロイド中心の治療が続いています。幸い、関節リウマチの治療として開発された薬剤が他の膠原病でも治療効果が証明され、新たな薬剤も承認されています。特に、若年女性で発症する全身性エリテマトーデスにも生物学的製剤が承認され、治療の変化が起きています。いまだ、自己免疫状態を克服するには至っていませんが、新たな薬剤の開発によって、ヒトの免疫の理解がより深まる側面がありますので、今後もさらに治療が進歩していきます。膠原病といえばステロイド一辺倒との印象をお持ちの方が少なくないと思います

当科の主な対象疾患



が、現在は如何にしてステロイドを使わない治療を行うかが最重要課題であり、膠原病の治療指針では可能な限りステロイドを減量・中止することが推奨されています。診断、治療方針のみならず、ステロイド減量が困難な方も、当科では何らかのお手伝いができると思います。



リウマチ膠原病・感染内科HP

地域の医療関係者の方へ

健康診断でリウマチ因子陽性、不明熱など膠原病や感染症が疑われる場合にはご紹介ください。診断、今後の治療方針を決定し、必要に応じて当院での加療継続または地域の先生方と併診頂きながらの治療を行っております。また、当科では新規薬剤導入時、治療過程での疾患活動性評価を目的としたパス入院を行っております。これらパス入院は、院外の先生方にも診療の一環としてご利用いただけるようにしておりますので、ご活用いただけますと幸いです。

Profile / 山岡 邦宏 (やまおか くにひろ)

- 1993年産業医科大学医学部卒業、九州大学第一内科入局、2001年米国国立衛生学研究所 (NIH) 留学、2005年産業医科大学第一内科学助手、講師、2014年慶應義塾大学リウマチ内科准教授、2018年より北里大学リウマチ膠原病・感染内科主任教授、2024年7月1日より、北里大学病院 病院長
- 医学博士、日本内科学会 (総合内科専門医、評議員)、日本リウマチ学会 (専門医、評議員)、日本臨床免疫学会 (代議員、免疫療法認定医) 日本免疫学会 (評議員)、アジア太平洋リウマチ学会 (理事)



北里大学病院公式X(旧Twitter)を始めました

当院の最新情報やイベント情報を発信していきます。ぜひご覧ください。

https://twitter.com/kitasato_hosp



医療機関専用のご予約について

医療機関専用電話 (担当) トータルサポートセンター・事務

☎ 042-778-9988

受付
時間

月～金 午前8時30分～午後4時30分
土(第1・3・5) 午前8時30分～午前11時

事前予約サービス(診察予約)ご利用対象の診療科

2024年7月1日現在

消化器内科(上部・下部・胆膵・肝臓)

糖尿病・内分泌代謝内科

循環器内科

腎臓内科

脳神経内科

リウマチ膠原病・感染内科

呼吸器内科

血液内科【完全予約】

脳神経外科

眼科

【完全予約】

●10歳以下の小児・弱視斜視限定

●11歳以上の斜視神経専門または神経眼科限定

泌尿器科

●前立腺癌で放射線密封小線源療法を希望する患者限定

産科

●ハイリスクの患者限定

婦人科【完全予約】

一般・消化器外科

●上部消化管外科疾患 ●下部消化管外科疾患

小児科

乳腺・甲状腺外科

●乳腺外科限定【完全予約】

※申込書及び手順につきましては病院ホームページ (<https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/concern/introduction/index.html>) をご覧ください。

※完全予約以外は紹介状を持参の上、直接ご来院もしくは「予約センター：当院の診察券をお持ちの患者専用」にてご予約をおとりいただくことも可能となっております。なお、眼科の上記疾患以外のご予約については、患者さんから直接、予約センターにご連絡ください。受診日をご案内します。(予約センター：042-778-8855)

※ご紹介用の「外来担当表」は病院ホームページ (https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/download/section/department/gairai_syokai.pdf) に毎月掲載しております。

検査サービス

2024年7月1日現在

生理検査

MRI検査

核医学検査

CT検査

PET-CT検査

内視鏡検査

※申込書及び手順につきましては病院ホームページ (<https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/concern/kensa/index.html>) をご覧ください。

セカンドオピニオン・オンラインセカンドオピニオン

2024年7月1日現在

医療機関からの申込制となっております。

※申込書及び手順につきましては病院ホームページ (https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/visitor/gairaishinryo/second_opinion.html) をご覧ください。



北里大学病院病院長 就任のご挨拶



北里大学病院 病院長 山岡 邦宏

この度、2024年7月1日より北里大学病院 病院長を拝命いたしました山岡邦宏と申します。この誌面をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。私は1993年に産業医科大学卒業後、九州大学、米国留学、産業医科大学、慶應義塾大学を経て2018年より北里大学リウマチ膠原病・感染内科主任教授を勤めております。この間、関節リウマチを中心として免疫難病である自己免疫疾患を専門としてまいりました。

北里大学病院は、神奈川県県央地区を中心として人口約200万人という非常に大きな医療圏の中に立つ特定機能病院です。2020年には北里大学東病院が大学病院本院と統合され国内でも有数の病床数を有する大学病院となりました。特定機能病院は高度の医療提供、開発・評価と研修を実施する役割を担っており、急性期医療の充実、高難度新規医療技術導入に積極的に取り組んでおります。同時に、高度な医療安全管理体制も求められており、院内に専門の部署と専従医師と複数の職員を配置し、日々院内の安全情報を収集し、如何に安全性を高めるか、如何に安全性を担保していくか議論し対策を講じております。さらに、他の病院や診療所からの紹介患者への医療提供が重要な役割であり、地域連携の充実を図っていきたいと考えております。当院では、各科で患者様、近隣の医療機関の皆様にご協力いただける医療を提供しており、是非とも患者様をご紹介いただけますと幸いです。また、逆紹介にもこれまで以上に力を入れて行きたいと考えておりますため、今後の地域連携へのご協力をお願いすると同時に地域連携の充実に向けて中心的役割を果たせるようにしてまいります。そのためにも、組織としてこれまで以上に信頼されることが重要であると感じております。そのためには、個々の職員が個としてこれまで以上に患者様、医療機関の皆様にご協力いただける様努めることが重要だと考えております。皆様の視点から足りない面について忌憚なきご意見を頂いた時には改善に向けて改革を行います。私がこの文章を書いている今も病院では職員が患者様、地域の皆様にご協力することを考えて働いております。満足いただけただけ、褒めていただけただけなら、こちらこそ是非、お聞かせいただければ大変ありがたく思います。我々にとっては何よりの励みであり、エネルギー源です。

今年は20年ぶりの新札、北里柴三郎先生の千円札が発行される年でもあります。建学の精神である開拓・報恩・叡智と実践・不撓不屈を思い返して、今日よりも明日、今年よりも来年、より良い北里大学病院になるよう、職員一同取り組んでまいりますので、何卒よろしくご挨拶申し上げます。